

□議員名：中島好人

1 令和6年度施政方針について

論点	藤田市長は、新年の挨拶で、戦略的に市政運営を進めて行くと述べているが、これは企業人の言葉であり、市政運営は、自治基本条例で市民参加（参画）のまちづくりではないか。
回答	一般論からして、間接民主主義であるので、市としては、まずは議会に市の方針等を示すという形をとっている。これから市が進めていく上で大きな施策の柱になるRMOは、まさに市民参画の象徴だと考える。

論点	商工会議所を含むLABVと山口東京理科大学の事が中心となっているが、市民に顔を向けた市政運営を進めるべきではないか。
回答	誰もが主役のまちづくりを今までも推進してきたが、今後もさらに進めていく。

2 パートナシップ制度の導入について

論点	宇部市は2021年度から実施しているが、新年度から山口県、山口市も導入する。全国では、2017年に6自治体でしたが、2023年には328自治体、5,171組のカップルが誕生している。本市も制度を導入すべきではないか。
回答	ジェンダー平等の推進のための具体的施策として、パートナーシップ制度の調査、研究を進めていく。

論点	宇部市では、導入する前に、中学生に性的マイノリティへの理解を深めるために「LGBT啓発パンフレット」を作成している。本市も作成したらどうか。
回答	道徳科や保健体育科において子供たちの成長に合わせて理解を深めるとともに、学級活動や様々な教育活動を通して人権を尊重するよう指導しているのでパンフレットを作成する予定はない。

3、帯状疱疹患者への支援について

論点	50代から80代までに3人に1人が発症と言われていて、本市では、50歳以上の方が全人口の53.63%を占めている。宇部市や阿武町では、带状疱疹ワクチン接種に半額の4,000円を助成している。本市でも助成したらどうか。
回答	本人の希望による任意接種となっており、健康被害救済制度の適用外となることもあり、補償も十分ではない。現状では、市単独事業としての助成は考えていないが健康増進施策として研究していく。